

質問； 守備妨害と走塁妨害について教えてください。

回答； 試合でトラブルに結びつきやすいのが守備妨害、走塁妨害です。瞬時の判定であり、審判員も判定が「難しい」が正直なところです。

ここでは、守備妨害、走塁妨害の基本的な考え方を解説します。

【 守備妨害 】

例1 走者が離塁中、内野手が触れる前か、内野手を通過する前のフェアボールにフェア地域で触れたとき。

よく見られるケースですが、打球を誤って蹴ったり、身体に当てたりしたとき。

例2 走者が打球を処理しようとしている野手を妨害、あるいは送球を故意に妨害したとき。

走路上を走っていた走者と打球を処理しようとしている野手が交錯した場合は、たとえ偶然であっても守備妨害で走者アウトになります。

判定の大切なポイントは、「打者・打者走者・走者が、打球処理をしようとしている野手のプレイを妨害した場合」です。打球処理は守備優先です。

ただし、ここで注意しなくてはならないことは、すべての打球ではありません。

容易に処理できそうな範囲の打球が該当します。審判員が「アウト」宣告をするまではプレイを続けてください。自分では判断しない。

●守備妨害の場合 … ボールデッド、走者アウト、打者走者には一塁への安全進塁権が与えられます。

【 走塁妨害 】

ルールでは次の場合で、走者の走塁に影響を与えた場合、走塁妨害となります。影響を与えただけで走塁妨害になります。

○野手が球を持っていないとき。

○野手が打球の処理をしようとしないうち。

○野手が空タッチをしたとき。

注意； 空タッチは危険行為として退場となることもあります。

○野手が球を持って、走者を塁(ベース)から押し出そうとしたとき。

例1 打者が長打を放った。一塁から二塁に進塁しようとしたが、一塁手が一塁の塁上にいたため走塁に影響を与えた。

例2 打球を処理しようとしていない野手が走塁上において、走塁に影響を与えた。

●走塁妨害の場合 … ディレードデッドボール、妨害がなければ達していたと思われる塁までの安全進塁権が与えられます。

※ディレードデッドボール(審判員が左腕を横に出し宣告します)とは、プレイが完了するまでボールインプレイで、そのプレイが一段落したのち、審判員が適切な処置をする判定です。

走塁妨害のほか、不正投球等の場合に宣告されます。

※安全進塁権が与えられた場合、与えられた塁に達したのちも、アウトになる危険を承知で進塁することができます。小中学生の試合で四球となった打者が二塁を目指して一気に走っていくケースがよくあります。四球はボールインプレイです。安全進塁権は1個ですが、アウトになる危険を承知で進塁することができるケースです。

【本塁での走塁妨害】 捕手はよく理解してください。

走者が本塁に達しようとするとき、野手は本塁の前縁を空けなければなりません。

本塁の前縁は太線部分です(全部)。野手は走者が本塁に達しようとするとき、楕円形の部分に立ってはいけません。但し、既にボールを持っている場合を除きます。

